



CLUB HARLEY

Ride the HARLEY-DAVIDSON.

SINCE 1998

4カムならではの魅力を
サイドバルブからひも解きます!!



4CAM CRAZY!!

ベテランに愛され続けている
4カム・ハーレーの
奥深き世界。



強烈な個性を放つビューエルカスタム

SURESHOT

斬新なアイデアや造形的美しさを競うショーバイクと、スピードを追い求めるレーサー。相反する二つの要素を、一台のBuellで成立させること。それがMAGAMIに掲げる「シュアショット」の挑戦である。レースのための性能とショクオリティの美しさを高次元で融合。サーキットを本気で走るためのショーバイクだ。

text/Y.Kirpara 金原悠太 photo/S.Ise 伊勢情
問い合わせ/シュアショット
TEL043-312-0900 <https://sureshot.jp/>



SHURESHOT
相川拓也さん

**4CAM
CRAZY!!**
4カム・ハーレーの奥深き世界。

1998 Buell S1W
MAGAMI

「ホットロッドカスタムショー」のベストを競う経験するトップビルダーの一人「シュアショット」が作り上げたビューエルレーサー。ショーバイクにおいても走行性能を犠牲にしないのがビルダー相川さんのポリシー。それをより高いレベルの現場で実践するために作り上げた「レースを走るショーバイク」が「MAGAMI」である。ベースはビューエルS1W。ストックで100馬力を超えるホットなモデルだが、約20年前、自身が所有し、4カムエンジンの面白さを教えてくれた思い出深いモデルなのだという。価格はS1Wをベースにプロアルム化し、S1の弱点と云えるクランクケースマウントのリアサスペンションをシート下でフレームマウントに変更、リンクエッジを正確に計算してワンオフで作上げる高度なノウハウ、技術が詰め込まれたモデルである。また、オイルラインの配管やタイラップを使用しないクリップ留めの処理など、細部の仕上げに至るまでショクオリティを追求。デザインと機能どちらにも妥協しない姿勢こそがシュアショットのカスタムマナーであり、このマシンが近い将来、サーキットで結果を残し、シュアショットの哲学と技術力の高さを証明する姿に期待が高まるばかりだ。

サーキットを舞台とする
走るショーバイク



**Buellのホットモデルを
カスタムレーサーに**

相川さんの4カム好きの原点であるS1Wをベースに、ハイオリティなカスタムワークとスピードを同時に追求する一台。カスタムショー前にMAX10のレースに参戦し、4位入賞。今後セッティングを凝結めてさらにハイレベルなクラスに挑み、ハイレベルな走るショーバイクの実力をサーキットで証明する予定だ。



ストックで101馬力(カタログ値)を誇るS1Wをベースにスクリーミンイーグルのレーシングカムをインストールし、強化バルブスプリングに変更。バンクを意識したチタンマフラーはワンメッドで等長と軽量化を実現



シートレール、シートカウルは高強度のアルミ7N01材を使用したワンメッド。シートカウル下部にオイルタンクを装備



バックステップは、シフトリンクエッジがステップの上に設けられたM字リンクによって、バンク角を稼ぐレーサー仕様



エンジンは1200ccの排気量を変更することなく、FCR41φキャブレター、ショートファンネルを装備



強度と軽さのため外装は2mm厚のシートメタルからプレス成形したワンメッド。天地が薄く、直線的なラインが特徴である。ワンオフのトップブリッジにセットするハンドルは、現場で角度調整が容易なクリップオンタイプを装備



スイングアームはドゥカティS4Rのプロアームを使用するが、チェーンラインをスポーツスターの右側に合わせるため、上下反転させて補強を車体に合わせてリメイク。カスタムのクリエイティブティとサーキットのための走行性能を両立するディテール



レーシングプロス製BISHOP43フォークをセットするトップブリッジ/アンダーブラケットはビレットのワンメッド。肉厚だが裏面を肉抜きして高強度と軽量化を実現。ホイールはDUCATI 1100Sのマルケージニ鍛造ホイールを採用



通常S1のリアサスペンションは座下でクランクケースマウントだが、レースユースではケースに負担がかかるため、シート下でフレームマウントに変更。スベースのためにオフセットしているが正確な動きのリンク比を計算して、リンクエッジを製作して装着

